



平成16年度の大学運営上の重点取り組み分野

(年度計画のダイジェスト版)

【国立大学法人滋賀医科大学】

(前文) 大学の基本的な目標

滋賀県は、現在、人口の増加率が日本一高い県であり、「近い将来には、高齢化率が一番低い県(一番若い県)になる」と予想されている。このように増え続ける県民に対して、福祉や安心・安全な医療を提供すること及び住民のニーズにあった医学情報提供の場を設けることは重要な課題である。

また、滋賀県は中央に琵琶湖があるために、結果として環状になっている細長い県といえる。このため地域間のコミュニケーションが比較的とりにくく、医療機関や医療情報のネットワーク構築が求められている。

滋賀医科大学としては、このような地域の特徴を考慮しつつ、独自の新しい医学・看護学の教育・研究を推進するとともに、その成果を滋賀の地から国内はもとより世界に発信し、医学・看護学の発展に貢献すること及び高度な医療を提供することによって、人々の福祉の向上に寄与することを目標とする。

これらの目標を達成するために、構成員の「競争(個性化)」と「協調(和)」を軸にして、組織運営にあたる。また、教育・研究・医療の一層の充実と基盤強化の観点から近隣の大学との再編・統合を検討する。

平成16年度重点分野 【教育1 / 2】

医療人育成教育研究センターの設置

- 教育全般に関する事項を審議・統括し、目標達成の効率化を図る。

国家試験合格率の達成目標値の明記

- 医師国家試験においては95%以上、看護師国家試験においては98%以上及び保健師国家試験は95%以上の合格率を目指す。

学士編入学の定員を増やし、メディカル・スクール化を目指す。

- 学士編入学枠の拡大（5名 10名 17年度以降段階的に拡大の予定）。
平成16年度入学定員（前期）を、65名から60名に減員した。
- 学生の質の向上と、選抜する人材の多様化を推し進める。

助産師課程の設置準備

- 看護学教育の充実を図る。

平成16年度重点分野【教育2 / 2】

医療人育成教育研究センター

理事（教育・学術研究等）

医療人育成教育研究センター

入試方法検討部門

学部教育部門

大学院教育部門

教育方法改善部門

調査分析部門

学生生活支援室

障害学生支援室

平成16年度重点分野【研究1 / 2】

7テスラMR装置を用いた未来型低侵襲医学

- MR医学研究（メタボロミクス）と、サルES細胞を用いる再生医療研究を融合した学際研究プロジェクトを推進する。
- 移植細胞の生きた状態での機能解析：世界的にも例のない本学独自の研究として、インスリン産生細胞、脳神経細胞などを疾患モデルの動物の体内に移植し、その動態を7テスラMR装置で生きたまま機能解析する。
- 遺伝子・細胞治療・再生医療など最先端医療分野への応用と、先端医療技術開発能力を持つ人材の育成を図る。

平成16年度重点分野【研究2 / 2】

7テスラMR装置を用いた未来型低侵襲医学



ES細胞・人工授精によるサルの誕生

7テスラMR装置によるサル脳の観察

平成16年度重点分野【診療1 / 2】

高度専門的心臓血管診療の推進

- 心臓血管カテーテル法を用いた冠動脈疾患治療、不整脈の最先端医療の推進
- 高度専門心臓血管手術（心拍動下冠動脈手術）の推進
- “No refusal policy”の徹底

生活習慣病に関する質の高い医療の提供

- 生活習慣病診療センターにおける生活習慣介入外来の推進（栄養、運動、ストレス、禁煙管理）
- 全身動脈硬化症のスクリーニングシステムの導入による早期診断と発症予防

睡眠障害に関する臨床の重点化

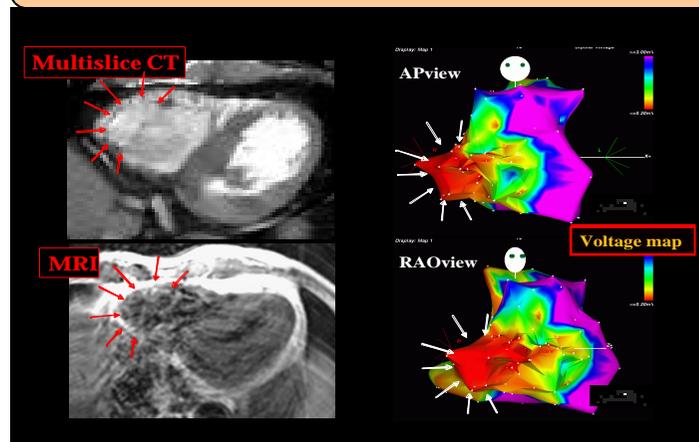
- 寄附講座の睡眠学講座と睡眠障害センターの連携のもとに、不眠症や睡眠時無呼吸症候群に関する診療の活性化、睡眠障害原因の究明や治療の推進

平成16年度重点分野【診療2/2】

心拍動下冠動脈バイパス手術



最先端の不整脈の診断と治療



生活習慣管理と動脈硬化症の
予防・治療

難治性睡眠障害の診断・治療

末梢動脈硬化
(Form
PWA/ABI)



頸動脈硬化
(超音波エコー検査)



冠動脈硬化(電子ビームCT)



平成16年度重点分野【業務運営1 / 2】

情報の共有化による業務意欲向上の促進

学内情報の一元化、共有化とホームページによるその公開
収集・分析した情報に基づく、大学の基本方針の策定、業務の効率化、業務評価の公平性と透明性の確保
学内構成員の業務意欲向上への動機づけの推進

経営分析及び経営戦略の構築

民間経営専門家である経営担当理事及び経営担当副病院長を中心として、民間的経営手法導入による大学経営戦略を構築する。
事務部門では、セグメント別に予算執行状況を把握し、収支の動向を分析し、経営判断を的確に実施する。
附属病院では「附属病院管理会計システム」を用いて、物流、財務、医療情報に関するデータ収集をシステム化し、その情報を基に経営改善に役立てる。

平成16年度重点分野【業務運営2 / 2】

■ ナレッジ・シェア（情報の共有）【学内の各種情報】

